

社会福祉学科

保育児童福祉コース

2年生

(講義)		科目名： 保育教養演習		講師：山田・内山	
科目概要・目標	保育士や幼稚園教諭の採用試験を突破する上で是非ともしっかりと理解しておきたい専門教養の内容については、基本的に大学併修科目において学んできているが、それらの内容は試験対策という形に集約することでいよいよ採用試験の得点力へと繋がってくることを考えると、やはり試験対策としての学習形態を疎かにすることはできない。問題演習を反復しながら、3年次のうちに確実な得点力を身につけ、4年次の就職試験に臨めるよう備えておきたい。				
教科書		指定なし。必要に応じてその都度、資料を配布します。			
期末試験		持ち込みなし。内容は後日発表			
回数		授業内容			
第1回		オリテン/子どもの食と栄養 テスト			
第2回		子どもの食と栄養			
第3回		子どもの保健			
第4回		テストおよび確認			
第5回		社会福祉			
第6回		社会福祉			
第7回		保育原理			
第8回		テストおよび確認			
第9回		保育の心理学			
第10回		家庭福祉			
第11回		家庭福祉			
第12回		テストおよび確認			
第13回		社会的養護			
第14回		教育原理			
第15回		期末試験対策			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	期末テスト		
	授業内評価	30点	授業態度		
備考		授業内容は変更になる場合があります。			

(実技)		科目名:音楽Ⅱ・音楽実技ⅡA(保育)		講師: 花井 淑		
科目概要・目標		「音楽」で学んだ基本的な音楽理論(楽典、和声法)、鍵盤楽器の基本的奏法を用いて、より実践力を高めるための演習を行う。「音楽」では、演奏するために必要な知識や技術について実践を通して学んだが、「音楽Ⅱ」ではさらに発展的に様々な曲を学ぶことで技術を確かなものにする。さらに読譜力を養うと同時に歌を歌うための発声法を学ぶ。保育現場での音楽活動に関わる演奏に発展する保育実践に焦点を当てた演奏力を身につける。				
教科書		「バイエルピアノ教則本」「新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門」「保育者・小学校教諭を目指す人のための音楽表現基礎 理論と実践の統合」				
提出課題	レポート設題 1	乳幼児向けの音楽表現活動で使用する音楽について、どのような基準で選ぶとよいか、自分の考えを述べてよ。				
回数		授業内容				
第1回		ガイダンス (楽器の扱い方、教室でのマナー、授業の進め方、ピアノ進度チェック、等)				
第2回		バイエル 70～106 の未終了曲		子どもの歌 弾き歌い ①	・ 春が来た ・ 虫のこえ	
第3回		楽典 (教科書 p.75～)		〃	・ かたつむり ・ 小さな世界	
第4回						
第5回		〃		〃	・ ひのまる ・ うみ ・ タやけこやけ ・ ふじ山	
第6回						
第7回		[中間試験: ピアノ弾き歌い ①]				
第8回						
第9回		レポート対策				
第10回		子どもの歌 コード伴奏 (教科書 p.234～)				
第11回		〃		子どもの歌 弾き歌い ②	・ たなばたさま ・ とんぼのめがね ・ 松ぼっくり ・ 雪	
第12回						
第13回		〃		〃		
第14回						
第15回		〃		〃		
第16回						
第17回		〃		〃	・ 茶つみ ・ とけいのうた ・ さくらさくら ・ 山の音楽家	
第18回						
第19回		DVD鑑賞 エーリッヒ・ケストナー作「飛ぶ教室」				
第20回						
第21回						
第22回		バイエル選択曲		子どもの歌 弾き歌い ②	・ とんび	
第23回		〃		〃		
第24回		[中間試験: ピアノ弾き歌い ②]				
第25回		バイエル選択曲		子どもの歌 弾き歌い		
第26回						
第27回		〃		〃		
第28回						
第29回		[後期 まとめ・発表]				
第30回						
第31回						
第32回		[期末試験: ピアノ弾き歌い]				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。			
	期末試験	20点	課題曲を変更して安易な曲にする場合、点数は70%とする。			
	授業内評価	10点	中間試験: 5点×2回			
		10点	子どもの歌 コード付け伴奏: 5点×2曲			
		10点	バイエル選択曲: 5点×2曲			
		20点	レポート (下書きにおいて評価する)			
		減点	忘れ物: 減点とする (1回につき 1点減点)			
備考		弾き歌いは、教科書または他楽譜より3曲 (未合格のもの) を選択、そのうち2曲は大学指定曲から選ぶこと。個人の技量によって変更、また、授業の進み具合により内容が変更になる場合がある。				

(講義)		科目名:教育方法論(ICT 活用を含む)(初等教育)		講師: 松村久美子		
科目概要・目標	通信技術を利用して「つながる」Society 5.0 の社会に生きる子供の「個別最適な学びと協働的な学び」・「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善に向けて、教員としての資質・能力の向上を図り、実践的な指導力を身に付ける教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を学修し、令和の日本型学校教育の学びに資する。また、到達目標は、以下の3点とする。 1.「個別最適な学びと協働的な学び」・「主体的・対話的で深い学び」のもととなる「学び」について、探究し、その学びを実現するための方法・技術を活用できること。 2. 教育現場で実践されているICT の活用事例を学び、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進に生かすことができるように、学び合うこと。 3. 情報通信技術の活用の意義と理論を理解するとともに、児童に情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための基礎的な指導方法を身に付けること。					
	教科書		①柴田義松、他『教育の方法と技術』学文社。 ②文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社。 ③稲垣忠・佐藤和紀編著『ICT 活用の理論と実践 DX時代の教師をめざして』北大路書房			
	提出課題	レポート設題1	学習指導案(または指導計画)の意義と作成上留意しなければならないことについて述べよ。 ＜ポイント＞ 学習指導案の意義を考えることは授業の内容を考えることでもある。何をどのように指導するか。どのようなことに配慮して指導案を作成すべきかを述べるのが重要であり、一人ひとりの子どもの学習状況の実態・理解度を踏まえた指導案はどのようにして作成するのかについて述べる必要がある。 ※自分が取得を希望する免許課程に則して作成すること。 ※保育士資格のみ取得希望者は「保育原理」の教科書なども参考とし、保育士の指導計画について述べること。			
		学修のポイント1	教育方法とは何か、学習指導案とは何か			
学修のポイント2		学校現場におけるICT を活用した授業の方法について				
学修のポイント3		教師の指導と支援について				
学修のポイント4		相対評価・絶対評価・自己評価・相互評価・個人内評価の意味とそれぞれの長短について				
学修のポイント5		指導要録記入上の留意点について				
学修のポイント6		教材研究の必要性について				
期末試験		後日授業で指示(持ち込み不可の論述試験)				
回数		授業内容				
第1回		教育方法の歴史 ソクラテス対話法から①5・6 ICT活用へ③106				
第2回		教育方法とは①105 学習指導案とは①70 コメニウス①7・8③11				
第3回		学習指導案とは何か ルソー①9-11				
第4回		学習指導案の意義 ベスタロッチ①12・13				
第5回		学習指導案の必要性 ヘルバルト①14-16				
第6回		学校現場におけるICT を活用した授業の方法③38-84-108-115-				
第7回		20世紀初頭の新教育 ①17-19 ICTだからこそできる学び③48				
第8回		日本の教育 明治期①22-24大正期①25-27昭和期①28-29				
第9回		教師の指導と支援について 集団主義①20・21学問中心①32・33				
第10回		児童中心30・31人間中心①34・35				
第11回		指導要録記入上の留意点について①151・152 授業構想(実践)① ②				
第12回		相対評価・絶対評価・自己評価・相互評価・個人内評価の意味 教育評価①138-150 授業構想(実践)③ ④				
第13回		教材研究の必要性について 教材研究①89 目標73 授業構想(実践)③ ⑥				
第14回		確かな学力を育てる授業 授業の意義①68・69学力とは136 授業構想(実践)⑦				
第15回		期末試験				
第16回		科目終了試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。			
	期末試験	30点				
	授業内評価	15点	持ち物・提出物			
		15点	授業参加・発言			
10点		理想の授業構想(実践)				
備考		教育方法の変遷を現代的な視点で捉え直し、DX時代の授業の構想(実践)・実践方法に生かします。				

(講義)		科目名:保育内容総論		講師: 鈴木みどり	
科目概要・目標	保育内容の5つの領域(保育所は「養護」的内容が加わる)は保育実践では分断されて行われるものではない。具体的な生活や遊びの中では、それらが丸ごと含まれているので、実践の中で総合的に捉える視点をもてるようにし、保育を進めていけるように学ぶ。				
教科書		横山文樹 駒井美智子『保育を学ぶシリーズ2 保育内容総論』大学図書出版			
提出課題	レポート設題 1	なぜ、子どもの活動を総合的活動として5領域から捉えるのか、その意義と問題について述べよ。 ＜ポイント＞ 子どもの意識や構え等に注目すること。活動の中に含まれる5領域のあり方、相互性等に注目すること。			
	学修のポイント1	保育内容を捉える視点「領域」について			
	学修のポイント2	生活と遊びの関係について			
	学修のポイント3	保育教材の活用について			
	学修のポイント4	保育形態について			
	学修のポイント5	保育の指導計画について			
	学修のポイント6	保育の中での子どもの発達を捉える際の留意点について			
期末試験		論述問題			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション 保育の基本			
第2回		保育内容を捉える視点「領域」について			
第3回		生活と遊びの関係について			
第4回		生活と遊びの関係について			
第5回		保育の中での子どもの発達を捉える際の留意点について			
第6回		保育の中での子どもの発達を捉える際の留意点について			
第7回		保育内容5領域について			
第8回		保育内容5領域について			
第9回		保育内容と指導計画			
第10回		保育形態について			
第11回		保育教材の活用について			
第12回		保育の指導計画について			
第13回		保育の中での子どもの発達を捉える際の留意点について			
第14回		保育の中での子どもの発達を捉える際の留意点について			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	論述式。		
	授業内評価	10点	レポート内容、提出状況。		
		20点	授業態度。		
		10点	実践の取り組み。		
備考		5領域の保育内容を学び、発達に即した制作、リズム遊び、保育実践をする。。			

2025年度 後期

(講義)		科目名:一般教養対策講座Ⅱ		講師:室山俊浩	
科目概要・目標	公務員試験、就職試験(SPI)対策として、出題される問題を中心に解き方を学習する。				
教科書		適宜プリントを使用する。			
期末試験		授業で扱った問題から出題。			
回数		授業内容			
第1回		問題演習			
第2回		問題演習			
第3回		問題演習			
第4回		問題演習			
第5回		問題演習			
第6回		問題演習			
第7回		問題演習			
第8回		問題演習			
第9回		問題演習			
第10回		問題演習			
第11回		学園祭読み替え(休講)			
第12回		学園祭読み替え(休講)			
第13回		問題演習			
第14回		問題演習			
第15回		問題演習			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	授業で扱った問題から出題する。持ち込み不可。		
	授業内評価	30点	授業内態度		
備考					

(講義)		科目名:人権教育		講師: 山田哲史	
科目概要・目標	人権尊重は21世紀の世界の課題である。わが国においても人権尊重の精神の涵養を目的とする多くの教育・啓発活動が行われている。本科目では、諸種の人権課題に対するわが国の取り組みについて理解を深め、それらの課題と人権教育との関連について考察を深める。また、日常の学校教育における人権教育のあり方についても学修する。				
教科書		必要に応じて資料を配布します。			
提出課題	レポート設題 1	人権教育の現状と課題について考察するとともに、学校における人権教育のあり方についてあなたの考えを具体的に述べよ。			
	学習のポイント1	「世界人権宣言」と憲法の「基本的人権」について			
	学習のポイント2	児童の権利に関する条約について			
	学習のポイント3	学校教育における人権教育について			
	学習のポイント4	教科等の学習における人権教育について			
	学習のポイント5	わが国の人権問題の現状と課題について			
	学習のポイント6	わが国の人権問題(課題)の解決について			
期末試験		(授業時に指示します。)			
回数		授業内容			
第1回		人権問題の現状と課題について(1、内容確認)			
第2回		人権問題の現状と課題について(2、まとめ)			
第3回		学校教育における人権教育について(1、内容確認)			
第4回		学校教育における人権教育について(2、まとめ)			
第5回		人権教育のあり方について(1、内容確認)			
第6回		人権教育のあり方について(2、まとめ)			
第7回		「世界人権宣言」と憲法の「基本的人権」について(1、内容確認)			
第8回		「世界人権宣言」と憲法の「基本的人権」について(2、まとめ)			
第9回		児童の人権擁護と行使について(1、内容確認)			
第10回		児童の人権教育と行使について(2、まとめ)			
第11回		教科等の学習における人権教育について(1、内容確認)			
第12回		教科等の学習における人権教育について(2、まとめ)			
第13回		わが国の人権問題(課題)の解決について(1、内容確認)			
第14回		わが国の人権問題(課題)の解決について(2、まとめ)			
第15回		期末試験実施			
第16回		科目終了試験実施			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	持込み許可物件:指定の教科書、自筆のノート、授業時に配布のプリント		
	授業内評価	20点	授業中態度:携帯、居眠り、私語、飲食は厳禁		
		20点	課題提出状況		
備考		教育の効果を高めるためにも、授業には集中力を持続して積極的に取り組むようにしてください。授業中の携帯電話の使用、居眠り、飲食や私語は禁止します。これらのルールを守ることができない学生に対しては不合格とすることがありますので注意してください。			

2025年度 後期

(講義)		科目名:保育内容(言葉)		講師: 鈴木みどり	
科目概要・目標		領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な基本的知識を身につける。乳幼児期の言葉の発達と言語環境の理論的理解を通して、乳幼児期の豊かな心身の育ちを培うための保育者の役割を考察する。また、豊かな想像性と言語表現を促す児童文化財について、理論と実践を通してその意義と価値を理解し、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識、技術を習得する。			
教科書		駒井美智子「保育をめざす人の保育内容「言葉」株式会社みらい			
提出課題	レポート設題1	乳幼児期における言語発達段階の特徴を挙げ、その時期の保育者の支援・援助との関連について述べよ。 ＜ポイント＞ 1. 「一語文」「質問期」等の専門用語の語彙を踏まえること。 2. 乳幼児期の心身の発達を確認すること。 3. 乳幼児期の言語発達の特徴を調べること。 4. 言葉の遅れのある乳幼児にも目を向け調べること。			
	学修のポイント1	保育内容「言葉」の観点・ねらい・方法内容について			
	学修のポイント2	0歳から6歳までの乳幼児の言葉習得の特徴について			
	学修のポイント3	幼児文化教材(絵本・紙芝居等)はなぜ幼児に必要なか			
	学修のポイント4	言葉の発達を支援する保育者の「言葉」について			
	学修のポイント5	子どもにとって「良いモデル」となる保育者の言葉遣いについて			
	学修のポイント6	模倣と成長と「言葉」について			
期末試験		論述試験			
回数		授業内容			
第1回		保育内容「言葉」の観点・ねらい・方法内容について			
第2回		保育内容「言葉」の観点・ねらい・方法内容について			
第3回		0歳から6歳までの乳幼児の言葉習得の特徴について			
第4回		0歳から6歳までの乳幼児の言葉習得の特徴について			
第5回		幼児文化教材(絵本・紙芝居等)はなぜ幼児に必要なか			
第6回		幼児文化教材(絵本・紙芝居等)はなぜ幼児に必要なか			
第7回		言葉の発達を支援する保育者の「言葉」について			
第8回		言葉の発達を支援する保育者の「言葉」について			
第9回		言葉発達段階の特徴と保護者の支援と援助について			
第10回		言葉発達段階の特徴と保護者の支援と援助について			
第11回		言葉発達段階の特徴と保護者の支援と援助について			
第12回		子どもにとって「良いモデル」となる保育者の言葉遣いについて			
第13回		言葉発達段階の特徴と保護者の支援と援助について			
第14回		模倣と成長と「言葉」について			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	論述式		
	授業内評価	10点	レポート内容、提出状況		
		20点	授業態度		
		10点	実践の取り組み		
備考		絵本の読み聞かせ、作者についてプレゼンする。手づくり絵本作成をする。			

(講義)		科目名:社会福祉		講師:坂 鏡子	
科目概要・目標	基礎的な社会福祉について体系的に学修する。具体的には、わが国や諸外国の社会福祉の歴史や歩み、現代社会において社会福祉が果たしている役割、社会福祉の法体系と運営実施体制、社会福祉の行財政と費用負担、民間社会福祉の組織と活動、少子高齢化となっている我が国の社会福祉の課題と展望などを学修する。				
教科書		小田兼三、杉本敏夫『社会福祉概論』 第5版 社会福祉の原理と政策			
提出課題	レポート設題1	我が国の第二次世界大戦後の社会福祉の歩みについて述べよ			
		我が国の社会福祉の歩みや歴史は、非常に長いものがあるが、第二次世界大戦位後においても大きく変化してきている。21世紀においてもいろいろな問題を抱えているが、それらを時代背景と共にしっかりと把握すること。			
	学修のポイント1	措置制度から契約制度の変遷について			
	学修のポイント2	我が国における少子高齢化の現状と課題について			
	学修のポイント3	地域福祉について			
	学修のポイント4	現在の貧困の問題について			
	学修のポイント5	諸外国の社会福祉の歩みや歴史について			
学修のポイント6	相談援助(ソーシャルワーク)について				
期末試験		後日授業内にて指示			
回数		授業内容			
第1回		社会福祉の概要と枠組み			
第2回		日本におけめ社会福祉の歩み(1)明治・大正の社会福祉事業-			
第3回		日本における社会福祉の歩み(2)-昭和時代の社会福祉-			
第4回		日本における社会福祉の歩み(3)-平成時代の社会福祉-			
第5回		イギリスを中心にしたむ社会福祉の歩み			
第6回		社会福祉の援助対象			
第7回		社会福祉のニーズのとらえ方			
第8回		社会福祉の法制度			
第9回		社会福祉の行政と財政-社会福祉行財政について-			
第10回		社会福祉と民間福祉活動			
第11回		社会福祉援助技術(相談援助)の意味			
第12回		社会福祉機関の組織と運営			
第13回		社会福祉の国際動向			
第14回		21世紀社会福祉の展望			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	15点	授業態度		
		10点	レポート内容		
15点		提出状況			
備考		前向きで積極的な授業態度を心がけてください。			

(講義)		科目名:保育内容(健康)	講師: 田口早苗
科目概要・目標	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園・保育要領における健康領域のねらいと内容について理解、習得することで、幼児期の発育・発達を理解し、子どもが自ら考えて行動し、問題解決できるように育む保育者を目指す。また、保育者として子どもの健康な心と体を育てることができるよう自ら健康的な生活を実践し、子どもが健康で安全な生活を作り出す力を支援できるようにする。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、保育士として公立保育所、障害児通園施設、児童センターで保育に従事し、園長も務めた講師のもと、保育現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。		
教科書		【教科書】資料配布 【参考書】池田裕恵・高野 陽編著『子どもの元気を育む保育内容研究』(不昧堂出版) 『幼稚園教育要領』文部科学省・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省・『保育所保育指針』厚生労働省	
提出課題	レポート課題1	幼稚園や保育所、認定こども園等における集団生活において、乳幼児の健康な心身の発達を助長するため、保育者が行う援助や指導について、発達段階毎の特徴とそれに応じて配慮すべき事柄や留意点に言及しながら述べよ。 ＜ポイント＞ 1. 集団生活における保育者の役割と位置づけ 2. 乳幼児の心身の発達に対する理解 3. 「基本的生活習慣」の形成と自立 4. 子どもにとっての遊び、とりわけ「運動遊び」の意義 5. 危機管理と安全教育	
	学修のポイント1	保育内容「健康」の意義について ＜ポイント＞は以下すべて別紙	
	学修のポイント2	幼児期における遊びと健康の関係について	
	学修のポイント3	幼児の安全教育と安全管理について	
	学修のポイント4	幼児期の基本的生活習慣における保育者の役割について	
	学修のポイント5	幼児の生活と遊びについて	
	学修のポイント6	幼児の心身の健康と発達について	
期末試験		授業内で発表	
回数		授業内容	
第1回		健康の概念に関する理解 「健康」についての基本的な定義や体力の概念について整理し、子どもにとって望ましい「健康」な状態とはどのような状態をいうのか考えをまとめる。	
第2回		基本的生活習慣の形成について 子どもにとって基本的生活習慣(食事・睡眠・排泄・清潔・着脱衣)の形成の必要性和重要性について理解する。 子どもにとって、適切な睡眠の習慣形成が重要であることを理解するとともに、夜型生活の子どもが増えている背景について考え、家庭との連携について意見交換を行う。	
第3回		心身の発達について スキヤモンの成長曲線(4タイプ)を学び、特にリンパ型と神経型は幼児期の心身の発達に関連が深いことを理解して、適切な援助を行う意義についてまとめ、意見交換を行う。	
第4回		遊びと健康について 保育は「遊び」を通しての指導を中心として行うものであることから、遊びの重要性を理解するとともに、遊びを育むための保育者の資質と役割について考えをまとめ、発表しあう。	
第5回		健康と安全について 子どもにとって安全教育が重要であることを理解するとともに、発達段階別に安全教育の具体的な方法について考え、発表しあう。	
第6回		保育演習・レポート作成指導	
第7回		保育演習・レポート作成指導	
第8回		保育演習・レポートアドバイス	
第9回		心身の発達について 子どもの心身の発達特性の観点から発達段階別に保育者のかかわり方についてまとめ、発表しあう。	
第10回		心身の発達について 子どもの心身の発達特性の観点から発達段階別に保育者のかかわり方についてまとめ、発表しあう。	
第11回		健康と安全について 子どもにとって安全教育が重要であることを理解するとともに、発達段階別に安全教育の具体的な方法について考え、発表しあう。	
第12回		遊びと健康について 「運動遊び」について発達段階別に具体的な例を挙げ、それぞれの遊びを行う上での配慮と留意点について、実際の保育状況を想定して「運動遊び」の保育指導案を作成し、発表しあう。	
第13回		模擬保育	
第14回		まとめ 学生自身の健康課題について振り返り、自分自身の健康課題について探る。保育者として自身の健康の自己管理の認識について考えをまとめる。	
第15回		期末試験	
第16回		科目終了試験	
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	30点	後日授業で指示(持ち込み不可の一問一答形式で試験を行う予定)
	授業内評価	20点	学習への参加・授業態度
		20点	提出期限等
備考		授業時における言動など、保育者を目指すものとして自覚ある態度で臨むこと。	

(講義)		科目名:保育の心理学Ⅱ		講師:内山 世璃奈	
科目概要・目標		「保育の心理学Ⅰ」で基礎的な知識を学修するため、ここでは保育実践に活かせる発達理解をすすめる。遊びや生活の活動の具体的な姿に表れる発達の姿を扱い、発達課題に即した教育的環境構成ができるようにする。子どもを総合的に捉え、環境との主体的な相互作用の意義、現代社会における子どもの問題等を具体的に考察する。			
教科書		随時資料を配布します。			
提出課題	レポート設題1	発達障害や虐待に関する記事やニュースを参考に、それらに伴うトラブルの要因と対処法について述べよ。			
	〈ポイント〉	発達障害や虐待に関する記事やニュースを読み、その記事についてまず要約した上で、その記事やニュースが生じた要因を分析し、問題への対応や予防について論じる。			
	学修のポイント1	子どもの発達理解の方法について			
	学修のポイント2	発達障害と虐待・PTSD・愛着障害について			
	学修のポイント3	園内研修と他機関との連携について			
	学修のポイント4	親子関係について			
	学修のポイント5	遊びの支援について			
学修のポイント6		言語・コミュニケーションへの支援について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		学修のポイント4 親子関係への支援について			
第2回		学修のポイント4 振り返り・作成・指導			
第3回		学修のポイント1 子どもの発達理解の方法			
第4回		学修のポイント1 子どもの発達理解の方法			
第5回		学修のポイント2 発達障害について			
第6回		学修のポイント2 愛着障害・虐待・PTSDについて			
第7回		学修のポイント2 レポート作成及び指導			
第8回		レポート 事例検討①			
第9回		レポート 事例検討②			
第10回		レポート 事例検討③			
第11回		レポート作成及び指導			
第12回		学修のポイント6 言語コミュニケーションへの支援について			
第13回		学修のポイント5 遊びの支援について			
第14回		期末試験対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	40点			
備考					

(実技)		科目名:声楽Ⅱ		講師: 田中由美子	
科目概要・目標	・昨年度歌った歌を復習し、確実に歌えるようにするとともに、新たな童謡・唱歌・わらべうたを知りレパートリーを増やす。 ・歌の重要な構成要素である詩に着目し、詩とメロディーの関係性を理解し、歌唱表現力の向上を目指す。				
教科書	幼児曲の本、プリント				
期末試験	・幼児対象の10分程度のコンサートプログラムを考え、曲紹介をしながら演奏する。				
回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション・はらぺこあおむし①・歌作り〈基礎①〉				
第2回	はらぺこあおむし②・ソルフェージュ①・歌作り〈基礎②〉				
第3回	はらぺこあおむし③・歌作り〈基礎③〉				
第4回	はらぺこあおむし④・ソルフェージュ②・歌作り〈基礎④〉				
第5回	はらぺこあおむし⑤・歌作り〈実践①〉				
第6回	はらぺこあおむし⑥・ソルフェージュ③・歌作り〈実践②〉				
第7回	中間テスト・歌作り〈実践③〉・10分プログラム作り①・わらべうた①				
第8回	ソルフェージュ④・歌作り〈実践④〉・10分プログラム作り②				
第9回	歌作り〈実践⑤〉・10分プログラム作り③・わらべうた②				
第10回	ソルフェージュ⑤・歌作り〈演奏①〉・10分プログラム作り④				
第11回	歌作り〈演奏②〉・10分プログラム作り〈演奏練習①〉・わらべうた③				
第12回	歌作り〈発表〉・10分プログラム作り〈練習②〉				
第13回	10分プログラム作り〈練習③〉・わらべうた④				
第14回	10分プログラム作り〈練習④〉				
第15回	まとめ				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点	10分コンサートプログラムを作り、曲紹介しながら演奏する		
	授業内評価	20点	幼児向けの歌を1曲作り、発表する		
		10点	中間テスト 歌唱テスト		
		10点	ソルフェージュチェック 2点×5曲		
		10点	平常点(忘れ物1点につきマイナス1点)		
備考	喉を使うので、体調管理に気を付けること。				

(講義)		科目名:レクリエーション理論		講師:山口榮三	
科目概要・目標	健康づくり、保育、教育、地域づくりなど幅広い領域で用いられているレクリエーションについて、これからの社会の課題などに関連させながら学習する。また、様々な対象(幼児・児童・生徒・成人・高齢者など)に対応したレクリエーション援助の意義について理解するとともに、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術(個別・グループ・環境)を実践的に身に付け、活用できるようにする。 授業では基礎理論とその実践を、対象者を挙げながら講義していく。また、レクリエーションの企画・運営の演習を交えながらレクリエーションの意義を学ぶ。特に、対象の背景や特性からレクリエーションの目的・目標や、どのようなレクリエーションプログラムが適切かを考え、それを実践し評価・反省することにより、レクリエーション支援の理論を学習していく。				
	教科書	日本レクリエーション協会編著『楽しさをとおした心の元気づくり ～レクリエーション支援の理論と方法～』日本レクリエーション協会、2017。 参考文献:必要に応じて授業内でプリントを配布する。			
期末試験	後日指示				
回数	授業内容				
第1回	ガイダンス(講義概要の説明)				
第2回	レクリエーションの支援とは レクリエーション・インストラクターの2つの役割				
第3回	レクリエーション・インストラクターの2つの役割				
第4回	楽しさをとおした心の元気づくりと対象者の心の元気 1. 楽しさをとおした心の元気づくりの理解				
第5回	楽しさをとおした心の元気づくりと対象者の心の元気 2. ライフスタイルと心の元気づくり				
第6回	子どもや高齢者の心の元気づくり／障がいのある人の心の元気づくり				
第7回	レクリエーション支援の理論 1. コミュニケーションと信頼関係づくりの理論 ▶気持ちをひとつにするための意思疎通				
第8回	レクリエーション支援の理論 2. コミュニケーションと信頼関係づくりの理論▶意思疎通の方法				
第9回	レクリエーション支援の理論 3. 対象者との信頼関係 ▶信頼関係 ▶お互いに分かり合っていると思えるようにする方法				
第10回	レクリエーション支援の理論 4.信頼関係づくりの方法▶ホスピタリティ▶対象者の気持ちを受け止める・受け止めていることを伝える				
第11回	良好な集団づくりの理論 1. 集団づくりの理解 ▶数の集まりから心の元気づくりを助け合える集まり				
第12回	良好な集団づくりの理論 集団内のコミュニケーションの促進 ▶集団の成長を見通したかかわり方▶コミュニケーションを段階的に促進する				
第13回	自主的、主体的に楽しむ力を育む理論 1. 自主的、主体的にレクリエーション活動を楽しむ力 2. 成功体験を支え合う対象者のかかわり				
第14回	レクリエーション活動の安全管理				
第15回	まとめ				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点			
	期末試験	30点	持ち込み:可 論述式		
	授業内評価	20点	レポート:提出期限までに作成できたか、自分の言葉でまとめられているかで判断します。		
		10点	実技:すすんで授業に参加しているか、体を動かしての行動等で判断します。		
		10点	授業態度:本学ルール、マナーにそって、意欲的に授業を受けていたかどうかで判断します。		
備考	授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。 遅刻は15分まで。その後は欠席となります。遅刻3回で欠席1回。				

2025年度後期

(講義)		科目名:子どもと環境		講師:高木芳子	
科目概要・目標		本授業では、領域「環境」の指導に関連する、乳幼児を取り巻く環境や、乳幼児と環境との関わりについての専門的事項における感性を養い、知識・技能を身に付ける。具体的には、 ①乳幼児の取り巻く環境と、乳幼児の発達にとっての意義 ②乳幼児期の思考・科学的概念の発達 ③乳幼児期の標識・文字等、情報・施設との関わり発達 これらの事項について理解する。 (実務を有する講師による授業の補足) 当科目は、保育士として保育所で保育に従事していた講師のもと、保育現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。			
		教科書		秋田喜代美、他『新時代の保育双書 保育内容 環境[第3版]』株式会社みらい 文部科学省『幼稚園教育要領解説』(平成30 年3 月)	
提出課題	レポート設題1	環境構成における「環境」、および保育内容の領域における「環境」それぞれについて、「環境」が意味するところと意義を述べよ。ただし引用文は最小限度に留めること。			
	学修のポイント1	環境を構成するとはいかなる実践であるのかについて			
	学修のポイント2	保育者と「人的環境」との違いについて			
	学修のポイント3	領域「環境」における社会環境の意義について			
	学修のポイント4	領域「環境」における自然環境の意義について			
	学修のポイント5	領域「環境」における数、量、文字の扱いについて			
	学修のポイント6	保幼小接続(カリキュラムでの接続)と領域「環境」の関係について			
	期末試験	後日提示			
回数		授業内容			
第1回		保育における「環境」の諸類型			
第2回		子どもの発達と環境:能動性・好奇心・探究心・有能感			
第3回		環境構成における「環境」人的環境としての保育者との関わり			
第4回		環境構成における「環境」人的環境としての友だち・異年齢集団			
第5回		環境構成における「環境」物的環境としての保育の場			
第6回		環境構成における「環境」物的環境としての素材・道具			
第7回		保幼小接続:身近な環境を通した保育と小学校生活			
第8回		保幼小接続:領域「環境」と生活科			
第9回		子どもを取り巻く環境の諸側面とその現代的課題			
第10回		子どもの発達と自然環境:物理的事象・数量・図形			
第11回		子どもの発達と自然環境:生物・自然等			
第12回		子どもの発達と社会環境:標識・文字等			
第13回		子どもの発達と社会環境:情報・施設・地域資源等			
第14回		子どもの発達とESD			
第15回		期末試験			
第16回		科目修了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	出席率	30点	授業への意欲、ミニテスト		
備考		茶屋とくしげ保育園で実地演習を行う			

(講義)		科目名:保育内容(人間関係)		講師:高木芳子	
科目概要・目標	保育内容を構成する人間関係について理解する。子どもの発達とともに人間関係がどのように広がり、深まっていくのかを理解する。保育における子ども、保育者、家庭、地域を含めた人とのかかわりについて理解し、保育の全体の構造における人間関係に関して総合的に指導・援助が行えるような理論や知識を習得する。そのうえで、子どもの発達に即した人間関係をはぐくむ援助や活動を構想できるようになることを目指す。 (実務を有する講師による授業の補足) 当科目は、保育士として保育所で保育に従事していた講師のもと、保育現場における事例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
教科書		なし 必要に応じて授業内で資料を適宜配布			
提出課題	レポート設題1	園生活において、子どもひとりひとりが大切にされながら豊かな人とのつながりが保障されるために、保育者としてどのような支援が必要か述べてよ。			
	学修のポイント1	子どもの社会化について			
	学修のポイント2	「仲間」から「集団」について			
	学修のポイント3	領域「人間関係」の「ねらい」と「内容」について			
	学修のポイント4	人とのかかわりの育ちと言葉について			
	学修のポイント5	保育者と子どもとのかかわりについて			
	学修のポイント6	園のなかでの子ども同士のかかわりについて			
期末試験		五感(視覚・聴覚・嗅覚・触覚・味覚)を使って自然を体験することで、保育者ができる子どもの内面に向けた援助にはどのようなものがあるか考えて述べてよ。			
回数		授業内容			
第1回		園生活における人間関係構築について-3歳前期-(DVD視聴と意見交換)			
第2回		園生活における人間関係構築について-3歳後期-(DVD視聴と意見交換)			
第3回		園生活における人間関係構築について-4・5歳期-(DVD視聴と意見交換)			
第4回		子どもの人権から「人間関係」を考える			
第5回		乳児期の人間関係			
第6回		乳児保育 社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」について			
第7回		1歳以上3歳未満児の人間関係			
第8回		領域「人間関係」の「ねらい」と「内容」について(1歳以上3歳未満児)			
第9回		3歳以上児の人間関係			
第10回		領域「人間関係」の「ねらい」と「内容」について(3歳以上児)			
第11回		集団における人間関係(集団遊びの中の援助・配慮)			
第12回		集団における人間関係(制作遊びの中の援助・配慮)			
第13回		集団における人間関係(特別な配慮の必要な子どもの援助・配慮 DVD視聴)			
第14回		保育者同士・保護者と保育者の人間関係(情報機器の活用を含む)			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	授業内ミニテスト、授業要約		
備考		授業の要約は授業内で20～30分程度の時間を使ってまとめる。			

(講義)		科目名:体育	講師: 山口榮三	
科目概要・目標	小学校教育課程における体育授業の基本的考え方や運動指導に必要な基本的知識を理解し(R)、各領域(体づくり運動、器械運動、陸上運動、ゲーム・ボール運動、表現運動、保健学習等)の特性を踏まえ実技を行う(S)。スクーリングについては実技中心の授業であり、適宜講義とディスカッション形式を取り入れる。			
教科書		文部科学省『小学校学習指導要領 体育編』東洋館出版 (参考文献)高橋健夫『新版 体育科教育学入門』大修館書店		
提出課題	レポート設題1	体育の目標、特性、領域を整理し、体育学習において子どもに身に付けさせたい内容について述べよ。 ＜ポイント＞ ・学習指導要領(体育)の目標を的確に把握する。 ・他教科には無い体育科の特性を整理する。 ・特性を踏まえ、体育学習で期待できる子どもたちの変容について具体的に記述する。		
	学修のポイント1	現代日本における体育科教育の重要性について		
	学修のポイント2	新体力テストの目的と、子どもの体力との関連性について		
	学修のポイント3	体づくり運動の内容と指導方法について		
	学修のポイント4	器械運動領域における段階的な指導について		
	学修のポイント5	小学校体育におけるボールゲームの指導方法について		
	学修のポイント6	小学校体育における保健学習の指導について		
期末試験		(後日連絡します)		
回数		授業内容		
第1回		現代日本における体育科教育の重要性について教科書をもとに整理する。		
第2回		新体力テストの目的と、子どもの体力との関連性について		
第3回		「体力づくり運動」ための内容と指導方法についてのポイントを教科書等の実践例をもとに整理する。(1)		
第4回		「体づくり運動」のための内容と指導方法について(2)		
第5回		(1)「機械運動領域」における段階的な指導のポイントを教科書等の実践例をもとに整理する(跳び箱運動「開脚跳び」を中心として)。		
第6回		(2)「機械運動領域」における段階的な指導のポイントを教科書等の実践例をもとに整理する(鉄棒運動「逆上がり」を中心として)。		
第7回		「小学校体育におけるボールゲーム」の指導方法のポイントを教科書等の実践例をもとに整理する。		
第8回		「保健学習」の教材配列を整理し、指導法について考察する。		
第9回		(1)実技「ボール運動」(ゴール型①)の典型教材を実技研究する。		
第10回		(2)〃 (ゴール型②)の典型教材を実技研究する。		
第11回		(3)〃 (ベースボール型①)の典型教材を実技研究する。 (4)〃 (ベースボール型②)の典型教材を実技研究する。		
第12回		「表現運動」や「ダンス」の教材やその指導法について教科書を参考にしながら整理する。		
第13回		「表現運動」や「ダンス」の教材やその指導法について教科書を参考にしながら整理する。		
第14回		実技授業まとめ		
第15回		期末試験		
第16回		科目終了試験		
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	
	期末試験	30点	持ち込み:可 論述式	
	授業内評価	20点	レポート:提出期限までに作成できたか、自分の言葉でまとめられているかで判断します。	
		10点	実技:すすんで授業に参加しているか、体を動かしての行動等で判断します。	
10点		受講態度:本学のルール、マナーにそって、意欲的に授業を受けていたかどうかで判断します。		
備考		レポート下書・清書及び課題は学校指定の期日までに提出するようにしてください。期日は厳守です。授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。遅刻は15分まで。その後は欠席となります。遅刻3回で欠席1回。天候等で予定を変更する場合があります。		

社会福祉学科

保育児童福祉コース

3年生

(講義)		科目名： 保育教養演習		講師: 山田・内山	
科目概要・目標	保育士や幼稚園教諭の採用試験を突破する上で是非ともしっかりと理解しておきたい専門教養の内容については、基本的に大学併修科目において学んできているが、それらの内容は試験対策という形に集約することでいよいよ採用試験の得点力へと繋がってくることを考えると、やはり試験対策としての学習形態を疎かにすることはできない。問題演習を反復しながら、3年次のうちに確実な得点力を身につけ、4年次の就職試験に臨めるよう備えておきたい。				
	教科書	指定なし。必要に応じてその都度、資料を配布します。			
	期末試験	持ち込みなし。内容は後日発表			
	回数	授業内容			
	第1回	オリテン/子どもの食と栄養 テスト			
	第2回	子どもの食と栄養			
	第3回	子どもの保健			
	第4回	テストおよび確認			
	第5回	社会福祉			
	第6回	社会福祉			
	第7回	保育原理			
	第8回	テストおよび確認			
	第9回	保育の心理学			
	第10回	家庭福祉			
	第11回	家庭福祉			
	第12回	テストおよび確認			
	第13回	社会的養護			
	第14回	教育原理			
	第15回	期末試験対策			
	第16回	期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	期末テスト		
	授業内評価	30点	授業態度		
	備考	授業内容は変更になる場合があります。			

(講義)		科目名:教育相談(カウンセリングを含む)		講師: 平石 太一	
科目概要・目標	教育相談は、現在の学校教育のすべての活動のなかで幅広く実践されており、教師にとって不可欠な資質である。そこで、学校における教育相談とは何か、生徒指導上の有効性、学級経営上の有効性などを理論、技法・態度などの体験を通して学習していく。内容は、来談者中心カウンセリング、行動カウンセリング、グループカウンセリング等の理論、技術を、講義やロールプレイ(役割演技)を実施しながら、一人ひとりが確実に体得するよう進めていく。				
教科書		石川正一郎 他『エッセンス学校教育相談心理学』北大路書房			
提出課題	設題 1	開発的カウンセリングの意義について述べよ。＜ポイント＞開発的カウンセリングは、問題が生じる前に、児童生徒の対人関係や自己意識の発達を促し、問題の生じる可能性を少しでも小さくすることを目的に生み出されたカウンセリングである。そこで、学校における担任を中心として行われる開発的カウンセリングのポイントを押さえ、この上に構成的グループ・エンカウンター、アサーションなどの実際の取り組みについて、その意義をまとめることができる。			
	学修のポイント1	児童生徒理解について			
	学修のポイント2	学校における教育相談の進め方について			
	学修のポイント3	不登校問題への対応について			
	学修のポイント4	いじめ問題への対応について			
	学修のポイント5	クライアント中心療法と傾聴について			
	学修のポイント6	保護者面接のあり方について			
期末試験		授業中での重要ポイントを中心に出題。			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション			
第2回		クライアント中心療法について			
第3回		教育相談の進め方について			
第4回		開発的カウンセリング①			
第5回		開発的カウンセリング②			
第6回		開発的カウンセリング③			
第7回		児童生徒理解①			
第8回		不登校			
第9回		いじめ			
第10回		保護者面接			
第11回		児童生徒理解②			
第12回		教育アセスメント			
第13回		その他、教育相談に関わる諸問題			
第14回		まとめ			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	論述内容		
	授業内評価	40点	課題の提出状況、課題・授業への取り組み状況などを総合的に評価します。		
備考		私語等、他の学生の迷惑になると判断した場合、厳格に対応する。			

(実技)		科目名：音楽実技ⅡC		講師：花井 淑	
科目概要・目標	保育・教育の現場で幼児・児童が生き生きと生活し、友達と仲良く遊んだり、仲間を思いやる心を育てる事ができる環境を音楽を通して作り、また、安心して園や学校、施設等での生活が楽しくできるようにするため、幼児や児童達の成長に即した音楽を提供できるように学ぶ。そのため、学生各人は、自分の音楽の素養と技量を向上させるよう、基礎的な事柄から高度の技術(ペダリング等)を、ピアノや声楽の練習によって学ぶ。バイエル未終了者は、終了することに重点を置く。				
教科書	「バイエルピアノ教則本」、「わかりやすい音楽表現入門」、配布楽譜、等				
期末試験	ピアノ実技試験				
回数	授業内容				
第1回	ガイダンス(楽器の扱い方、教室でのマナー、授業の進め方、進度調べ、等)。 ピアノ実技。				
第2回					
第3回	バイエル80～106 の未終了曲	弾き歌い①	・ ぞうさん ・ 春がきた		
第4回					
第5回	〃	〃	・ さんぽ ・ 虫のこえ		
第6回					
第7回	〃	〃	・ もりのくまさん ・ タやけこやけ		
第8回					
第9回	〔 中間試験： バイエル80～106 から1曲 と、 弾き歌い1曲 〕 自由選択。				
第10回					
第11回	バイエル80～106 の未終了曲	弾き歌い②	・ いぬのおまわりさん ・ 茶つみ		
第12回					
第13回	〃	〃	・ あめふりくまのこ ・ 春の小川		
第14回					
第15回	〃	〃	・ アイアイ ・ きよしこの夜		
第16回					
第17回	〔 中間試験： バイエル80～106 から1曲 と、 弾き歌い1曲 〕 自由選択。				
第18回					
第19回	バイエル80～106 の未終了曲	弾き歌い③	・ おもちやのチャチャチャ		
第20回					
第21回	〃	〃	・ ふしぎなポケット		
第22回					
第23回	バイエル80～106 の未終了曲	弾き歌い④	・ カレンダーマーチ		
第24回					
第25回	〃	〃	・ ふるさと ・ さくらさくら		
第26回					
第27回	〔 後期 まとめ・発表 〕				
第28回					
第29回	〔 期末試験： バイエル80～106 から1曲 と、 弾き歌い1曲 〕 自由選択。				
第30回					
第31回	単位取得にあたりバイエルは終了することに重点を置き、終了した学生はさらに上を目指すように努める。				
第32回					
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	10点	課題曲を変更して安易な曲にする場合、点数は70%とする。		
	授業内評価	20点	中間テスト：10点×2回 課題曲を変更して安易な曲にする場合、点数は70%とする。		
		10点	バイエル：5点×2曲		
		20点	弾き歌い：5点×4曲 ただし正伴奏で弾けること(和音伴奏の場合は5曲)		
		10点	発表：未発表のもの、ただし、試験で弾いたものは可。		
		減点	忘れ物：減点とする(1回1点 減点)		
備考	弾き歌いは、教科書、または他楽譜より4曲(未合格のもの)以上を選択				

(講義)		科目名: 幼児理解		講師: 鈴木みどり	
科目概要・目標	保育は、幼児一人ひとりの発達の特性に応じ、発達の課題に即した指導、援助を行うことが重要である。そこで本科目では、幼児一人ひとりの行動や内面の理解、発達を適切に把握できるよう、ビデオ等も利用し保育の基本のあり方、幼児の生活の実際、指導、援助方法、留意する点、保育記録の意味等について学ぶ。				
教科書		大豆生田啓友-渡邊英則編著「新しい保育講座6保育方法・指導法」 ミネルバ書房			
提出課題	レポート設題1	なぜ環境による保育が幼児教育では求められるのか述べよ。 ＜幼稚園教育要領や保育所保育指針にふれ、幼児期の特性や幼児の生活と学びの特性などに着目すること。＞			
	学修のポイント1	幼児の姿をより深くとらえるための保育者の姿勢について			
	学修のポイント2	遊びを通しての総合的指導について			
	学修のポイント3	保育形態について			
	学修のポイント4	行事を生かした保育の展開について			
	学修のポイント5	地域や小学校との連携が生かされる保育について			
	学修のポイント6	保育者に求められる発達の理解について			
期末試験		論述問題			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション 幼児理解とは			
第2回		幼児の姿をより深くとらえるための保育者の姿勢について			
第3回		遊びを通しての総合的指導について			
第4回		遊びを通しての総合的指導について			
第5回		保育者に求められる発達の理解について			
第6回		保育者に求められる発達の理解について			
第7回		なぜ環境による保育が幼児教育ではもとめられるか			
第8回		保育形態について			
第9回		なぜ環境による保育が幼児教育ではもとめられるか			
第10回		なぜ環境による保育が幼児教育ではもとめられるか			
第11回		なぜ環境による保育が幼児教育ではもとめられるか			
第12回		地域や小学校との連携が生かされる保育について P175			
第13回		保育者に求められる発達の理解について			
第14回		行事を生かした保育の展開について			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	論述式。		
	授業内評価	10点	レポート内容、提出状況		
		20点	授業態度		
		10点	実践の取り組み		
備考		幼児の好きな歌、遊び等を取り入れ子ども理解に役立てていく。			

(講義)		科目名:教育実習指導(初等)(幼稚園)		講師:鈴木みどり	
科目概要・目標	教育実習は、大学で習得した知識や理論を、幼稚園で実際に体験することにより、教育の理解を深め、実践力と教師の使命感を身につけ、教育職としての資質を向上させることを目的とする。 本授業では、幼稚園実習の目的達成のための基礎知識や心構えを身につける。具体的には幼児および児童の発達と理解、教材研究、指導の方法、学級経営などについて講義や事例検討を通して学ぶ。また、教育実習における日誌や個人記録の取り方を体得し、このことを通して幼稚園教育の実際や各自の教師としての能力・適性について認識を深める。 学生は実習において、幼児との生活や遊び、学習を中心とする様々な教育展開の方法を観察・実習体験し、課題や問題点を細部にわたって反省評価し、指導教師に指導・助言を受ける。その際、幼児の一人ひとりの発達の状況や、家庭との連携の必要とその方法についても認識を広げる。				
教科書		学びをいかす保育実習ハンドブック 関口はつ江編 大学図書出版			
期末試験		保育実習における実習態度の留意点について			
回数		授業内容			
第1回		教育実習の意味、実習に必要な心構え・マナー			
第2回		子ども理解と援助 指導案・記入に必要な事項			
第3回		実習に必要な心構え・マナー			
第4回		指導案・記入に必要な事項			
第5回		指導案作成			
第6回		教材研究:わらべうたあそび			
第7回		教材研究:集団遊び			
第8回		教材研究:絵本			
第9回		教材研究:絵本ペープサート			
第10回		教材研究:絵本			
第11回		教材研究:うちわシアター			
第12回		模擬保育			
第13回		模擬保育			
第14回		模擬保育			
第15回		子ども理解と援助			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	論述		
	授業内評価	20点	授業態度。		
		20点	実践の取り組み。		
		集団遊び、絵本の読み聞かせ、ペープサート制作実技			
備考					

(講義)		科目名:教養演習Ⅱ		講師:室山俊浩	
科目概要・目標	公務員試験、就職試験(SPI)対策として、出題される問題を中心に解き方を学習する。 なお、外部の講師による就職対策講座が入る可能性がある。				
教科書		適宜プリントを使用する。			
期末試験		授業で扱った問題から出題。			
回数		授業内容			
第1回		問題演習			
第2回		問題演習			
第3回		問題演習			
第4回		問題演習			
第5回		問題演習			
第6回		問題演習			
第7回		問題演習			
第8回		問題演習			
第9回		履歴書・面接対策講座（マイナビ）			
第10回		学園祭読み替え(休講)			
第11回		学内企業・法人説明会(musbun)			
第12回		学園祭読み替え(休講)			
第13回		問題演習			
第14回		問題演習			
第15回		問題演習			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	授業で扱った問題から出題する。持ち込み不可。		
	授業内評価	30点	授業内態度		
備考					

2025年度(後期)

(実技)		科目名:音楽実践演習		講師:樋上 莊一	
科目概要・目標	本科目では、楽譜を読む、音を奏でる、リズムを打つといった音楽の基礎知識、技術を身につけ、対象者に合わせた音楽活動について考察する。また、保育・教育・福祉等の現場に即した音楽活動について体験的な学習をする。				
教科書		・新 保育者, 小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門 ・保育児童福祉要説 ・「標準バイエルピアノ教則本」 ・プリント(授業で配布)			
提出課題	レポート設題	設題 : わらべうた及び明治期、大正期、昭和初期、戦後のそれぞれの時期に作曲された子供の歌の中から1～2曲ずつを取り上げ、それらの歌の特徴について、歴史的背景に触れながら述べよ。 ＜ポイント＞ 日本古来より伝承されてきたわらべ歌と、西洋音楽理論に則って作られてきた明治以降の子供の歌の作曲の経緯の相違の相違を考えるとともに、明治期以来の子供の歌も、作曲された曲が歴史的背景によって明確な特徴のあることを、実際にその時代の曲を取り上げながら考察する。			
	学修のポイント1	1. 音楽の指導に必要な基礎事項 (五線譜、音部記号と音名及び階名、音符と休符)			
	学修のポイント2	2. 基礎的事項 (拍と拍子、拍子の種類と指揮棒の振り方)			
	学修のポイント3	3. 音程について			
	学修のポイント4	4. 音階と調 (長音階、短音階)			
	学修のポイント5	5. 楽譜に用いられる記号と標語			
設題	中間テスト	メロディーが書かれた五線譜譜に、コード伴奏を記入する。		中間テスト	
	期末テスト	1. コード伴奏での弾き歌い。(1曲) 2. 音楽理論について (記述式)		期末試験	
	日時	授業内容と、練習及び合格目標			
1	第1回	＊ガイダンス (楽器の扱い方、授業の進め方の確認) ＊バイエル・子どもの歌を中心に、練習			
2	第2回	＊バイエル・子どもの歌を中心に、各自練習する			
3	第3回	＊同上 / コードとは何か。			
4	第4回	＊同上 / コードネームとその転回形について			
5	第5回	＊中間テスト : 伴奏付け(メロディーが書かれた五線譜に、コード伴奏を記入する。)			
6	第6回	＊同上 / レポート: わらべうた及び明治期、大正期、昭和初期、戦後のそれぞれの時期に・・・			
7	第7回	＊同上 / レポート: わらべうた及び明治期、大正期、昭和初期、戦後のそれぞれの時期に・・・			
8	第8回	＊バイエル・子どもの歌を中心に、各自練習する			
9	第9回	＊バイエル・子どもの歌を中心に、各自練習する			
10	第10回	＊バイエル・子どもの歌を中心に、各自練習する			
11	第11回	＊期末テストⅠ : 子どもの歌、弾き歌い。(2曲)			
12	第12回	＊バイエル・子どもの歌を中心に、各自練習する			
13	第13回	＊バイエル・子どもの歌を中心に、各自練習する			
14	第14回	＊和音構造 ・ コードネームについて			
15	第15回	＊拍子と拍子記号について			
16	第16回	＊期末テストⅡ : 音楽理論について			
成績評価	出席率	30点	75% 以上出席すること。出席不足の場合は再履修とする。		
	レポート	20点	下書きにおいて評価する		
	中間テスト	20点	コード伴奏付け(記譜)		
	期末テスト	30点	音楽理論について／子どもの歌の弾き歌い。(2曲)		
備考		＊学修のポイントは、1年次【音楽】にて学修済			

2025年度 後期

(講義)		科目名:実習指導Ⅱ(施設)		講師:坂 鏡子	
科目概要・目標	この科目では、児童養護施設の概要を理解し、施設実習の意義や目的について意識を高めることをねらいとする。				
教科書	伊藤貴啓・小川英彦『保育士をめざす人の福祉施設実習』みらい 愛知県児童福祉施設長会広報委員会『朋』愛知県児童福祉施設長会				
期末試験	後日指示				
回数	授業内容				
第1回	児童養護施設光輝寮の事業概要を理解する				
第2回	施設実習における留意点と記録について				
	施設実習(光輝寮) 10/21-11/2				
第3回	実習の振り返り(報告と発表)				
第4回	実習の学びを今後はどう生かすか(報告と発表)				
第5回	試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	40点	授業内課題		
備考	授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。				

(講義)		科目名:障害児療育		講師: 花木元司	
科目概要・目標	近年、個のニーズや生活様式の多様化とともに、療育における支援のあり方も多様化している。そのような中で統合保育の効果が実証されつつあり、障害のある子どもの療育の場としての統合保育を希望する保護者は多い。一方、明確な診断はないがトラブルの目立つ「気になる」子どもの報告が増え、今やこれらの子どもに対する専門的な知識と対応力の向上は必須となっている。本科目では、乳幼児の定型発達に関する基本的な知識を踏まえながら、特別なニーズのある子どもへの対応、障害の受容期にあたる保護者への支援のあり方、保育所の職員間や外部専門機関との連携などに視点を置きながら、障害児療育の理論と実践について学ぶ。				
教科書		【教科書】市川奈緒子 岡本仁美「発達が気になる子どもの 療育・発達支援入門」金子書房 【参考文献】 尾崎康子、他「よくわかる障害児保育」ミネルバ書房			
提出課題	レポート設題1	保育の場で出会う可能性のある心身の障害について、いくつかのタイプを例に挙げ、それぞれの特徴を示すとともに起こりうる生活上の困難さと支援の在り方について述べよ。			
	学修のポイント1	1.早期発見・早期療育について			
	学修のポイント2	2.保育所における「気になる子」の支援について			
	学修のポイント3	3.療育における専門性と地域支援に求められる役割について			
	学修のポイント4	4.療育におけるチームアプローチについて			
	学修のポイント5	5.発達障害における2次障害について			
	学修のポイント6	6.障害児保育の変遷と課題について			
期末試験		持ち込み不可の一問一答形式で試験を行う予定			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション 障害とは何か P1～P9			
第2回		早期発見・早期療育についてポイント① P142～P159			
第3回		早期発見・早期療育について			
第4回		障害のさまざまな(知的障害、ダウン症) P10～P11			
第5回		障害のさまざまな(肢体不自由・視覚障害・聴覚障害) P18～P25			
第6回		障害のさまざまな(ASD) P16～P17			
第7回		保育所における「気になる子」への支援について ポイント② P12～P15			
第8回		保育所における「気になる子」への支援について P12～P15			
第9回		療育の専門性と地域支援に求められる役割について ポイント③P121～P141			
第10回		療育の専門性と地域支援に求められる役割について P166～P176			
第11回		療育におけるチームアプローチについて ポイント④		P27～P39	
第12回		発達障害における2次障害について ポイント⑤			
第13回		障害児保育の変遷と課題について ポイント⑥			
第14回		まとめ 発達支援の方法			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	課題の意図を捉えているか		
	授業内評価	20点	積極的に授業に臨んだか		
		20点	提出物(期限内に提出できたか)		
備考		授業中の居眠り、携帯電話の使用、音楽などの聴取、その他授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、減点の対象とします。			

(実技)		科目名:レクリエーションワーク		講師:山口榮三	
科目概要・目標	社会福祉の援助技術に関わる課題としてのレクリエーションについて学修する。まず、ライフステージ(幼児・児童・青年・老年・障害者)に対応したレクリエーション援助の意義について理解する。そして、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション援助の技術(個別・グループ・環境)を、実践を通して身につける。				
教科書	①レクリエーション支援の理論と方法 楽しさをとおした心の元気づくり 公益財団法人日本レクリエーション協会 レクリエーション・インストラクターテキスト ②各種レク財冊子 ③県内実施の事業 *②③の資料は山口榮三が用意します。				
期末試験	後日指示				
回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション				
第2回	レクリエーション支援の展開方法 個別及び集団レクリエーション支援				
第3回	ウォークラリー企画 目的・テーマ設定等の企画グループミーティング				
第4回	ウォークラリー企画 コース下見 1回目				
第5回	ウォークラリー企画 コマ図作成				
第6回	ウォークラリーの実践				
第7回	レクリエーション支援実習1 支援の方法、内容についてグループミーティング				
第8回	レクリエーション支援実習2				
第9回	レクリエーション支援実習3				
第10回	レクリエーション支援実習4				
第11回	レクリエーション支援実習5				
第12回	レクリエーション支援実習6				
第13回	レクリエーション支援実習7				
第14回	レクリエーション支援実習8				
第15回	まとめ				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点			
	期末試験	30点	持ち込み:可 論述式		
	授業内評価	30点	支援計画案の提出及びその内容で評価します。		
		10点	本学園におけるルール、マナーにそって、授業を受けていたかどうかで判断します。		
備考	授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。				

(実技)		科目名:情報処理演習Ⅰ		講師: 室山 俊浩	
科目概要・目標	コンピュータの基本操作・基本知識について学ぶ。図表を含む文章の作成・表計算等ソフトウェアの基礎知識やネットワークの考え方、ブラウザや電子メールソフトの使い方の習得を目的とする。具体的には、国内外のホームページを閲覧したり、電子メールを使用し、情報の収集・加工をするなどコンピュータ・コミュニケーションの能力向上を図る。				
教科書		奥村晴彦、他『基礎からわかる情報リテラシー』 技術評論社			
提出課題	レポート設題1	最近一ヶ月以内にインターネットで起きた事件のうち、興味があるものを1～2つ選び、効果的な対策と自身の考えを述べよ。			
	レポート設題2	インターネットの光と影について、それぞれ、具体的な例を挙げて述べよ			
	学修のポイント1				
	学修のポイント2				
	学修のポイント3				
	学修のポイント4				
	学修のポイント5				
期末試験		実技課題（科目終了試験を兼ねる）			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション / レポート対策 設題「インターネットで起きた事件」			
第2回		インターネットを使用した情報検索 / レポート下書作成			
第3回		インターネットを使用した情報検索 / レポート下書作成			
第4回		レポート対策 設題「インターネットの光と影」 / レポート下書作成			
第5回		インターネットを使用した情報検索 / レポート下書作成			
第6回		インターネットを使用した情報検索 / レポート下書作成			
第7回		実技指導			
第8回		実技指導			
第9回		実技指導			
第10回		実技指導			
第11回		実技指導			
第12回		実技指導			
第13回		実技指導			
第14回		実技指導			
第15回		実技指導			
第16回		期末試験/科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	実技試験 科目終了試験を兼ねる 持ち込み不可		
	授業内評価	30点	授業内課題作成状況、内容など		
備考		レポートはWordを用いて作成する事。手書き不可。			

(講義)		科目名:子どもの食と栄養		講師:浅井恭子	
科目概要・目標		小児期の栄養と食生活との関係を学び、一生涯の食生活の意義を理解する。また、保育者として、保育の食生活、「こころ」の健康について理解を深め、食生活の望ましいあり方と生活全般の関連性について広い視野に立って考察する力を養う。小児の特徴は成人と違って常に発育・発達していることである。子供は新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、青年期と変化しながら成人になるが、この発育・発達の各段階によって栄養要求寮や接種方法が異なってくる。ことに、新生児期、幼児期は著しく発育・発達をとげるので、この時期に最も優れた栄養としての「母乳」を与えることによって、「こころ」と「体」のバランスのとれた子供のなっけゆくのである。			
教科書		上田玲子『新版 子供の食生活―栄養・食育・保育―』ななみ書房			
提出課題	レポート設題1	各栄養素の体内での働きと多く含む食品について述べよ。			
	学修のポイント1	ビタミンの生理作用と多く含まれる食品について			
	学修のポイント2	母乳栄養の長所と留意点について			
	学修のポイント3	育児用ミルクの成分について			
	学修のポイント4	離乳の進め方について			
	学修のポイント5	幼児における遊び食いと偏食について			
	学修のポイント6	食育の重要性とその内容について			
期末試験		食育はなぜ重要かについてあなたの考えを論じなさい。			
回数		授業内容			
第1回		授業の進め方、諸注意、教科書の確認、設題について			
第2回		学修のポイント2:母乳栄養の長所と留意点について			
第3回		学修のポイント3:育児用ミルクの成分について			
第4回		学修のポイント4:離乳の進め方について			
第5回		設題:炭水化物(糖質・食物繊維)、についてまとめなさい。			
第6回		設題:脂質とタンパク質についてまとめなさい。①			
第7回		設題:脂質とタンパク質についてまとめなさい。②			
第8回		設題:ビタミン・ミネラル(無機質)をまとめ、結びに言葉を考えなさい。①			
第9回		設題:ビタミンとミネラルをまとめる。(学修のポイント1を含む)②			
第10回		学修のポイント6:食育の重要性について(偏食や遊び食い含む)			
第11回		子どものおやつについて			
第12回		模擬授業準備:食べ物の大切さについて考えさせる内容			
第13回		模擬授業:発表①			
第14回		模擬授業:発表②と意見交換			
第15回		期末試験(持ち込む不可)			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	1000字以上を規定とする		
	授業内評価	15点	提出物の期限厳守＊期限が守られない場合は減点の対象とする。		
		15点	模擬授業と取り組みを評価		
		10点	授業時の取り組み方(教科書や資料など忘れが生じたら減点対象となる。)		
備考		①携帯電話は許可なく使用禁止。②私語は慎むこと。③居眠り禁止。			

(講義)		科目名:子ども家庭支援の心理学/ こども家庭支援の心理学		講師: 平石 太一
科目概要・目標	子ども支援の心理学では、まず、乳幼児期から老年期までの人の生涯発達のプロセスや、各時期の課題について学ぶ。さらに、家族・家庭の意義や機能を学び、親子関係や家族関係等について、子どもとその家族を、発達の視点や、包括的に捉える視点を習得する。また、現代の子育て家庭に関する社会的状況や、家庭の多様性、特別な配慮をする家庭などについて学び、子どもがうける生育環境からの影響、子どもの心や健康に関わる問題について学ぶ。			
教科書		本郷一夫、神谷哲司『シードブック 子ども家庭支援の心理学』建帛社		
提出課題	設題 1	育児不安、共働き家庭、孤立している家庭、貧困家庭、虐待、保護者の精神障害・疾病、外国にルーツを持つ家庭などの、「特別な配慮を必要とする家庭」の状況を1つ選び、保育園でそういった家庭を支援していく場合の具体的な方法について述べよ。＜ポイント＞「特別な配慮を必要とする家庭」がうまれる個人や社会の要因や、考えられる子どもへの影響、および、保育園でこういった家庭を支援していく場合の具体的な方法について、論じていく。		
	学修のポイント1	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識について		
	学修のポイント2	家族・家庭の意義や機能の理解について		
	学修のポイント3	子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題について		
	学修のポイント4	子どもの精神保健について		
期末試験		授業中での重要ポイントを中心に出題。		
回数		授業内容		
第1回		オリエンテーション		
第2回		家族・家庭の意義と機能、変化		
第3回		生涯発達(各発達段階の特徴について)		
第4回		多様な子育て家庭への支援		
第5回		特別な配慮を必要とする家庭への支援①		
第6回		特別な配慮を必要とする家庭への支援②		
第7回		特別な配慮を必要とする家庭への支援③		
第8回		親としての養育スタイルの形成と世代間伝達		
第9回		子どもの精神保健①		
第10回		子どもの精神保健②		
第11回		障害のある子どもの理解と対応		
第12回		災害と子ども		
第13回		ライフコースとワーク・ライフ・バランス		
第14回		まとめ		
第15回		期末試験		
第16回		科目終了試験		
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。	
	期末試験	30点	論述内容	
	授業内評価	40点	課題の提出状況、課題・授業への取り組み状況などを総合的に評価します。	
備考		私語等、他の学生の迷惑になると判断した場合、厳格に対応する。		

2025年度 後期

(講義)		科目名:保育実習事後指導Ⅰ(保育所・施設)		講師: 高木芳子	
科目概要・目標	保育実習Ⅰでの総括・評価を行い、それを踏まえて保育実習Ⅱ(Ⅲ)に向けた学修目標・課題を明確化する。 1. 保育実習Ⅰで生じた疑問点を解消する。 2. 保育実習Ⅰの反省と自己課題を明確にする。 3. 保育者に求められる資質・能力について理解する。 ※本スクーリングは保育実習Ⅰ実施後、保育実習Ⅱ(Ⅲ)実施前に受講する。				
	(実務を有する講師による授業の補足) 当科目は、保育士として保育所で保育に従事していた講師のもと、保育現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
教科書		「自分をいかす保育実習ハンドブック」 関口はつ江編 大学図書出版 『施設実習ガイド―保育者として成長するための事前事後学習』 駒井美智子 萌文書林			
期末試験		後日提示			
回数		授業内容			
第1回		0歳児期の子どもの特徴(「育ちのきほん」p.6-17)			
第2回		1・2歳児期の子どもの特徴(「育ちのきほん」p.18-29)			
第3回		2・3歳児期の子どもの特徴(「育ちのきほん」p.30-41)			
第4回		1～3歳児期の子どもの特徴(「育ちのきほん」p.42-53)			
第5回		3～5歳児期の子どもの特徴(「育ちのきほん」p.54-65)			
第6回		4～6歳児期の子どもの特徴(「育ちのきほん」p.66-77)			
第7回		5～6歳児期の子どもの特徴(「育ちのきほん」p.78-83)			
第8回		指導計画作成(子どもの姿をイメージしてねらいを立てる)			
第9回		指導計画作成(ねらいをもとに活動を考える)			
第10回		指導計画作成(ねらい・活動計画をもとに配慮を意識して各欄を記入する)			
第11回		指導計画に沿って模擬保育を行う(指導教員の前で)			
第12回		模擬保育の振り返り(指導教員とともに)			
第13回		指導計画の修正			
第14回		保育教材の準備			
第15回		導入・展開の理解			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	提出物・制作の締め切りを守る、意欲的に参加する		
備考		授業内で茶屋徳重保育園での実地演習を行う			

社会福祉学科

保育児童福祉コース

4年生

(講義)		科目名:子育て支援		講師: 定行加保里	
科目概要・目標	保育士の行う子育て支援の特性として、子どもの保育とともに行う保護者の支援、保護者との相互関係や信頼関係の形成、支援のニーズについての気づきと多面的理解、子どもと保護者が多様な他者と関わる機会や場を提供することなどを理解する。支援の展開として、子どもと保護者の状況・状態の把握、支援の計画と環境の構成、支援の実践・記録、職員間、関係機関との連携・協働を学ぶ。多様な支援ニーズを抱える子どもと家族への支援の実際(内容・方法・技術)を学ぶ。				
教科書		【教科書】亀崎美沙子他『保育の専門性を生かした子育て支援』わかば社			
提出課題	レポート設題1	【設題1】現代の子育て状況についての考察を踏まえて、子育て支援の必要性について述べて。 [ポイント]乳幼児の子育ては母親一人が孤独の中で行っている場合が多い。人間関係が希薄化しており、子どもとの接触経験も少なく、不安の中子育てをする親を支援する必要性・重要性についてまとめる。			
	学修のポイント1	子育て支援と「子どもの最善の利益」の保障の関連について			
	学修のポイント2	子育て支援と保育者の専門性について			
	学修のポイント3	保護者との関係構築のための「共感」「受容」について			
	学修のポイント4	保護者の秘密保持について			
	学修のポイント5	関係機関との連携・協力について			
	学修のポイント6	子育て支援の難しさについて			
期末試験		授業内で発表			
回数		授業内容			
第1回		シラバスの確認・子育て支援とは・現代の子育てとその課題			
第2回		子どもの最善の利益(学修のポイント①)			
第3回		保護者の養育力の向上			
第4回		保育士の専門性の活用(学修ポイント②)			
第5回		関係機関との連携・協力(学修ポイント⑤)			
第6回		子育て支援の困難性 (学修のポイント⑥)			
第7回		安心感や親としての自尊心を支える			
第8回		子育て支援の意義			
第9回		保護者との信頼関係の形成 共感・受容(学修ポイント③)			
第10回		相互理解や交流を深める			
第11回		保護者の自己決定と秘密保持(学修ポイント④)			
第12回		子育て支援における保育環境の活用			
第13回		保育者の子育て支援における葛藤			
第14回		まとめ			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	論点を正しく捉えているか。		
	授業内評価	20点	学修への参加・授業態度		
		20点	提出期限等		
備考		子育て支援の必要性を、社会の状況と関連付けて抑えていきましょう。			

(講義)		科目名:ボランティア論		講師: 逆瀬川浩二	
科目概要・目標		「何か自分たちにもできることがあるに違いない」、「他者や社会の助けになりたい」という内的動機に支えられた活動には、そのための準備、トレーニング、実践体験の裏づけが必要である。ボランティアについての基礎理論を学修した上で、現場でのニーズの把握、適切な組織構成などの実践理論を、様々な過去のボランティア活動例(災害援助活動、国際交流、社会福祉活動等)を基に学修する。また、ボランティア活動を実際に体験し、その経験をもとに、より効果的なボランティア活動を行うために必要なことを考察していく。			
教科書		田中康雄・小口将典・竹下徹『最新・はじめて学ぶ社会福祉㉔ ボランティア活動論』ミネルヴァ書房			
提出課題	レポート設題1	ボランティアの組織化・国際化と、求められるボランティア活動について述べてください。 (テキストp54～60の各図表からわかることや考えられることをもとに、ボランティアの組織化と国際化について述べること。また、活動主体と活動領域の両面から自己の体験や考えを踏まえ、求められるボランティア活動について考察すること)			
	学修のポイント1	子どもと子育て世代に対するボランティア活動について			
	学修のポイント2	障がいのある人や高齢者等の様々な人に対するボランティア活動について			
	学修のポイント3	災害時のボランティア活動について			
	学修のポイント4	地域・まちづくりとボランティア活動について			
	学修のポイント5	ボランティアと教育について			
	学修のポイント6	グローバルな視点による海外ボランティアについて			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション			
第2回		ボランティアの概念、歴史、研究動向について			
第3回		子どもと子育て世代に対するボランティア活動について			
第4回		DVD鑑賞(クロスロード)			
第5回		DVD鑑賞(クロスロード)			
第6回		障がいのある人や高齢者等の様々な人に対するボランティア活動について			
第7回		災害時のボランティア活動について			
第8回		地域・まちづくりとボランティア活動について			
第9回		ボランティアと教育について			
第10回		グローバルな視点による海外ボランティアについて			
第11回		DVD鑑賞(僕たちは世界を変えることができない。)			
第12回		DVD鑑賞(僕たちは世界を変えることができない。)			
第13回		ボランティアの可能性と限界について			
第14回		補講: 社会における地域課題の解決にとってのボランティアの存在			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点	後日発表		
	授業内評価	30点	提出物		
		20点	授業態度		
備考		参考資料:久米隼『これだけは理解しておきたいボランティアの基礎』日本橋出版 ※12月16日(火)休講→2月10日(火)補講			

(講義)		科目名:障害児療育		講師: 花木元司	
科目概要・目標	近年、個のニーズや生活様式の多様化とともに、療育における支援のあり方も多様化している。そのような中で統合保育の効果が実証されつつあり、障害のある子どもの療育の場としての統合保育を希望する保護者は多い。一方、明確な診断はないがトラブルの目立つ「気になる」子どもの報告が増え、今やこれらの子どもに対する専門的な知識と対応力の向上は必須となっている。本科目では、乳幼児の定型発達に関する基本的な知識を踏まえながら、特別なニーズのある子どもへの対応、障害の受容期にあたる保護者への支援のあり方、保育所の職員間や外部専門機関との連携などに視点を置きながら、障害児療育の理論と実践について学ぶ。				
教科書		【教科書】市川奈緒子 岡本仁美「発達が気になる子どもの 療育・発達支援入門」金子書房 【参考文献】 尾崎康子、他「よくわかる障害児保育」ミネルバ書房			
提出課題	レポート設題1	保育の場で出会う可能性のある心身の障害について、いくつかのタイプを例に挙げ、それぞれの特徴を示すとともに起こりうる生活上の困難さと支援の在り方について述べよ。			
	学修のポイント1	1.早期発見・早期療育について			
	学修のポイント2	2.保育所における「気になる子」の支援について			
	学修のポイント3	3.療育における専門性と地域支援に求められる役割について			
	学修のポイント4	4.療育におけるチームアプローチについて			
	学修のポイント5	5.発達障害における2次障害について			
	学修のポイント6	6.障害児保育の変遷と課題について			
期末試験		持ち込み不可の一問一答形式で試験を行う予定			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション 障害とは何か P1～P9			
第2回		早期発見・早期療育についてポイント① P142～P159			
第3回		早期発見・早期療育について			
第4回		障害のさまざま(知的障害、ダウン症) P10～P11			
第5回		障害のさまざま(肢体不自由・視覚障害・聴覚障害) P18～P25			
第6回		障害のさまざま(ASD) P16～P17			
第7回		保育所における「気になる子」への支援について ポイント② P12～P15			
第8回		保育所における「気になる子」への支援について P12～P15			
第9回		療育の専門性と地域支援に求められる役割について ポイント③P121～P141			
第10回		療育の専門性と地域支援に求められる役割について P166～P176			
第11回		療育におけるチームアプローチについて ポイント④		P27～P39	
第12回		発達障害における2次障害について ポイント⑤			
第13回		障害児保育の変遷と課題について ポイント⑥			
第14回		まとめ 発達支援の方法			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	課題の意図を捉えているか		
	授業内評価	20点	積極的に授業に臨んだか		
		20点	提出物(期限内に提出できたか)		
備考		授業中の居眠り、携帯電話の使用、音楽などの聴取、その他授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、減点の対象とします。			